北青木遺跡第７次調査

-阪神電車高架化工事に伴う発掘調査-

北青木遺跡について

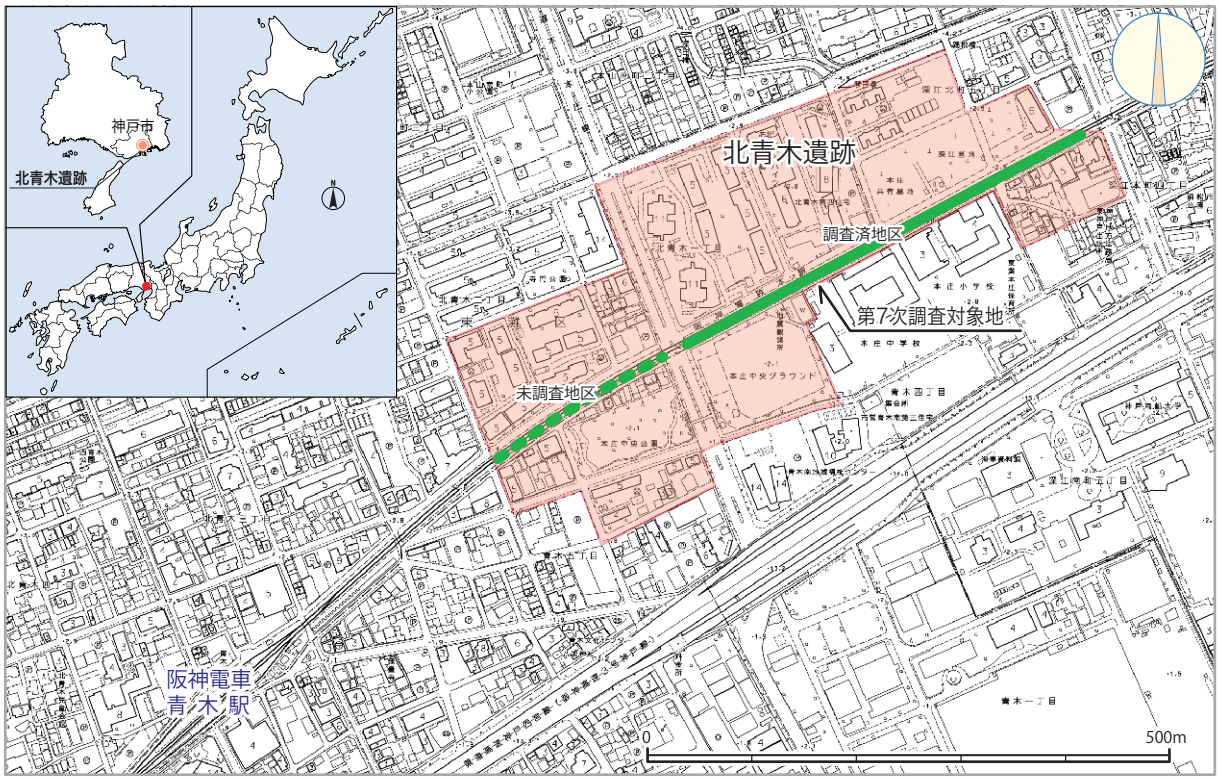
北青木遺跡は、昭和59・60年度に北青木１丁目の県営住宅改修工事に伴い発見されました。その後、共同住宅建設などに伴い発掘調査を重ね、今回で７回目の発掘調査になります。これまでの調査成果によって、縄文時代後期から中世にかけての遺構や遺物が出土する、複合遺跡であることが判明しています。

また、発掘調査や地質調査を通じて、六甲山南麓の海岸線を形成する浜堤（砂丘）上に遺跡の分布することが確認され、神戸の海岸線形成過程が徐々に解明されつつあります。

遺跡の範囲は広大で、阪神電鉄を中心に東西最大幅約550ｍ、南北最大幅約250ｍの範囲（約10万㎡）に想定されています。

特に注目される発見として、下水管敷設工事に伴う第5次調査において、弥生時代中期後半の銅鐸（北青木銅鐸）が出土しています。詳細な調査の結果、一度埋納したものを掘り出し、再び埋納していたことが判明し、銅鐸祭祀のあり方を解明する貴重な資料になっています。

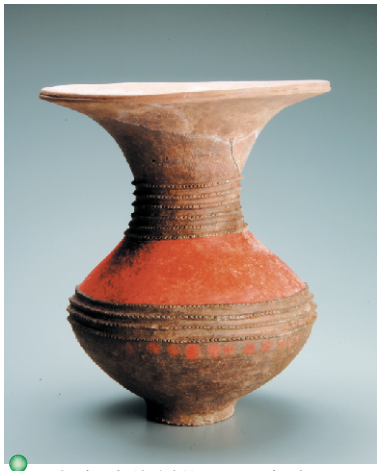
今回の発掘調査は、阪神電鉄の高架化事業に伴うもので、工事によって遺跡が壊される範囲（橋脚部分）のみ、土留めの鋼板を打ち込み、実施しています。北青木遺跡内には、およそ100㎡の調査区が31か所あり、これまでに15調査区を終えています。今回の現地説明会は、その内のB59-AとB59-B調査区の調査成果を、公開するものです。



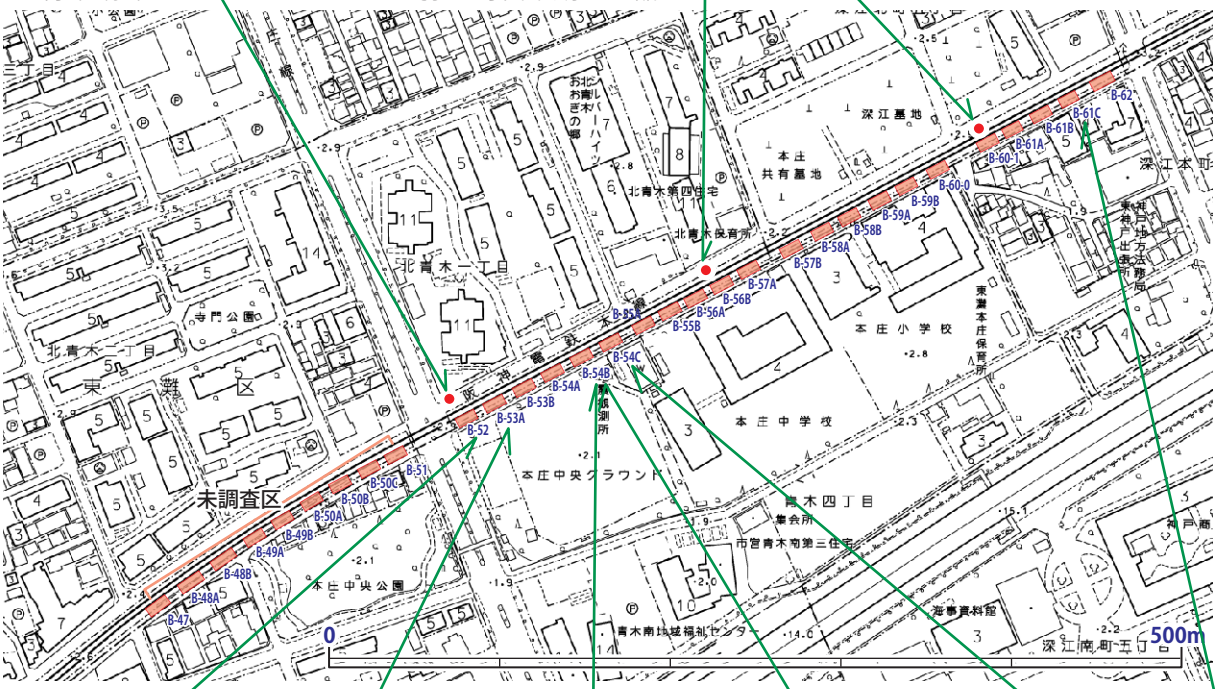
調査地点位置図

北青木銅鐸

弥生時代中期の土器



弥生時代前期の彩文土器
（画像処理で彩色部分強調）



弥生時代中期の土器

弥生時代前期の土器

奈良時代の掘立柱建物

奈良時代の馬の骨

弥生時代中期の土器

近代の橋台

幾つもの棺が埋葬された弥生時代中期末の方形周溝墓（B59-B区）

調査成果

これまでに調査を終えた調査区では、阪神電鉄敷設時の盛土、電鉄敷設前の耕作土、水害による洪水砂などが一番上の土層として検出されました。B52～B59-B区までは近代の耕作土層の下から、浜堤の砂が現れて、弥生時代～中世の複数の遺構が同一面で見つかります。B60-１～B62では、近代耕土層の下に複数の近世耕作土が存在し、さらに下層には植物遺体を多く含む粘土層が続いています。この粘土層は、西側にある浜堤から次の浜堤に至るまでの堤間湿地だと考えられます。

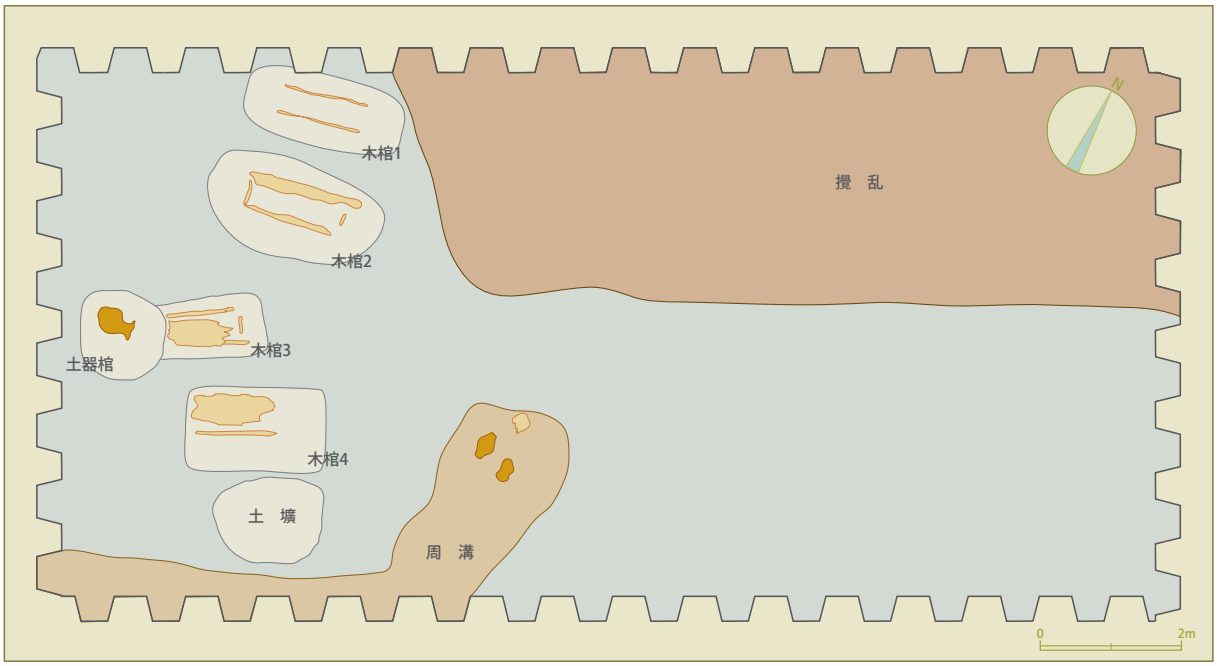
これまでの調査で、B52・B54-B・B56-Bからは、胴部や底部に孔が穿たれた弥生土器（壷）が出土しています。また、B53-Aでは奈良時代の溝に馬の骨や貝殻（ハマグリなど）が捨てられていました。B54-Cでは奈良・平安時代の掘立柱建物1棟が見つかりました。B56-Bでは、溝の中から古墳時代の土器とともにガラス玉と管玉が出土しました。B54-Aでは要玄寺川の前身と考えられる江戸時代の川の跡が見つかりました。B61-Cでは、阪神電車敷設当初の橋台が見つかっています。

弥生時代の方形周溝墓

B59-Bで、弥生時代中期末の方形周溝墓に埋葬された木棺墓４基と土器棺墓１基が出土しました。周溝は、最大幅1.3m、深さ0.35mで、全体の南東部分が調査区内にありました。周溝は途切れて連続せず、土橋状に内部の墳丘とつながっていたようです。周溝中からは、弥生時代中期末の壺や台付長頸壺などが出土しました。また、用途は不明ですが、約25cm角の板が１点出土しています。

木棺は、いずれも長さ1m前後で、幅は0.4m程度です。その規模が小さいことから、幼児や子供が埋葬されたのではないかと考えられます。土器棺には、生まれた直後の嬰児が葬られたものと考えられます。

以上のことから、この周溝墓には子供のみが埋葬されている可能性があります。このムラの有力者の血縁にある子供ばかりが葬られていたのかもしれません。弥生時代の葬送形態を考える上で、貴重な資料になります。



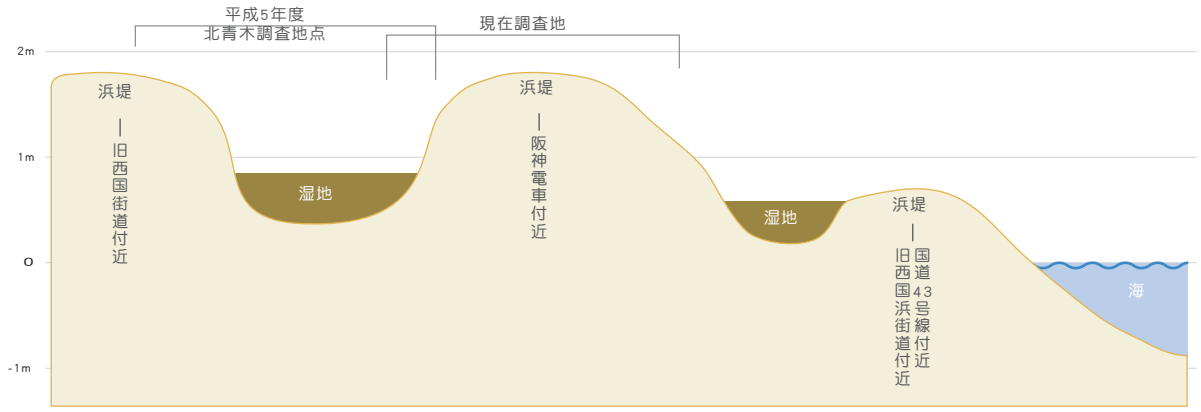
B59-B 調査区出土遺構平面概略図

弥生時代の土地利用について

今回の調査では、通常の考古学的な発掘調査に加え、地質学の調査も同時に行ないました。当地域では、六甲山南麓から河川を経て土砂が海中に流入し、それが沿岸流にのって砂嘴が形成されました。そして、それが発達して浜堤（砂丘）となったものが、海岸線に並行して数列存在することを確認することができました。また、この浜堤と浜堤の間には、湿地（堤間湿地）の広がっていることが、これまでの発掘調査でも確認されています。

この付近の弥生時代の景観は、山側の最も安定した浜堤上に居住域が営まれ、付近の堤間湿地は、水稲耕作などの生産域として利用され、さらに海側の浜堤上では、今回発見されたような周溝墓や土器棺などの墓域が営まれていたことがわかりました。

このように、土地の成り立ちが解明され、さらに弥生時代の人々が、居住域や生産域、墓域を、地形によって使い分けていたことを確認することができました。このことは、神戸の歴史を復元していく上で、大変貴重な資料になります。



遺跡の立地断面模式図

北青木遺跡第7次調査及び現地説明会の開催にあたっては、阪神電気鉄道株式会社と清水建設・前田建設工業特定建設工事共同企業体の協力を得ました。
編集・発行・印刷：神戸市教育委員会 文化財課【神戸市中央区加納町6丁目5番1号】